

亀山歴史散策マップ 南めぐり



⑥ **大歳神社** (通称)ださあさん
 亀山 4-7-14 虹山団地下下車 東へ徒歩3分

両延神社の北辺の守護神として奉斎したものという。昭和44年虹山団地造成に伴い現在地に遷された。



① **杉薬師** (別称)瑠璃山医王寺
 亀山1-22-39 広島北税務署より南へ徒歩3分
 この地にあった1本杉の大木が、一夜のうちに数々の仏像となり、人々は一宇を建立して祀ったと伝えられる。仏像が安置されたお堂は出水で度々流されたが、不思議にも御本尊・脇侍の御仏も川下の小高いところに留まっていたので人々の信仰はますます高まった。諸病を救い福德を授げるといふ御利益がある。



⑦ **竜王さん** (通称)ぢおうさん
 亀山南 3-22-13 虹山団地下下車、南へ徒歩5分

小堂宇が建っており観音開きの扉を開けると約一尺角の板に彫られた竜王像が安置されている。



② **惣社大明神**(河戸神社)
 亀山 2-18-11 旧河戸駅より北へ徒歩3分
 創祀年代は不詳であるが神武天皇が東征の際逗留された地を祀ったのが始まりと伝えられている。中世には、安芸の国の守護・武田氏代々の祈願所となった。



⑧ **荒神さん**
 亀山 7-23

勝木地域は通行者が多く、病気が入らないよう見守りして下さるのが荒神さんである。



③ **八坂神社** (旧称)祇園社 (通称)天王さん
 亀山 3-18-7 福王寺口下車、南へ徒歩5分
 石と鏡が安置されている。水難、災害、疫病を恐れ須佐之男命(牛頭天王)を祀ったのが始まりという。



⑬ **ころげ観音**
 可部町今井田
 安佐北大橋より1km先工場横の小道を40メートルほど上った所にある。一見弱々しいイメージをもつが、地表に出ている部分は幅4メートル、横2メートルの巨大な石の観音である。今からおよそ156年ほど前の記録に『去る年の大震により螺山から転げ落ちた観音、弘法大師の御作』とある。



⑬ **松浦城跡**(尾首城跡)
 水越山東斜面にあり、江戸時代『松浦基五郎左衛門城主、退転相知不申候』とある。



⑨ **伊勢神社**
 亀山南 3-32-1
 創祀年代は不詳であるが、昔、お伊勢参りをする者は、出立帰着をこの神社に報告する習慣があったとされる。



④ **光西寺観音** (別称)広濟寺、西光寺
 亀山 4-17-8
 現在の亀山南小・亀山中の辺りに光西寺があり、記録によると光西寺は廃寺となって現在地に堂宇を建立し移転したのは大正12年8月となっている。



⑭ **山崎神社**
 可部町今井田
 安佐北大橋より2.1km(今井田集会所バス停 徒歩3分)
 創祀年代は不詳であるが鎌倉時代以前とされ、日清日露・太平洋戦争で、この地区からの出征者に戦死者が一名も出なかったのは、この神社の神徳によるものといわれている。



⑪ **旧亀山発電所**
 可部町今井田 418-81
 明治45年、太田川最初の水力発電所として完成した。可部地域は急速に電灯化し、産業の機械化、工業化を促した。昭和47年の大水害を契機に、老朽化、コスト高などから48年3月に廃止された。



⑤ **両延神社** (旧称)白石山八幡宮(通称)西宮
 亀山南 3-17-1 下大毛寺下車、南へ徒歩5分
 建久元年(1190)宇佐八幡宮の分社を下四日市村に勧請し、建長5年(1253)現在地に奏還したのが始まりといわれている。当地方の守護神として篤い尊敬を受け、秋の大祭は毎年大変な賑わいである。



⑮ **大野神社**
 可部町勝木大野 旧安芸亀山駅裏
 宮の創建は古く宝暦9年(1759)とあり、この地方では古い宮である。拝殿は創建当時のものといわれ、長年風雪に耐えて重厚であり、歴史の重みを今に伝えて十分である。広い境内を取り囲む形で松・イチョウ・カタギなどの巨木が立ち、この神社の古さを示している



⑫ **柳瀬八幡神社**
 可部町今井田 安佐北大橋もと
 由緒等分らないが、江戸時代に上四日市の土居九衛門という者の先祖が勧請したと言われ、神事もこの人が行っていたと記録されている。神様と仏様が一つ屋根のした、しめ縄の奥に仲良く同居しておられるのである



⑩ **神宮神社、新宮神社** (別称)荒人神社
 亀山南 1-18-1 旧河戸駅より西へ徒歩10分
 創祀年代は不詳であるが、安永年間(1771)の記録に「神宮一社」とある。ご神体は仏像。土地の人の話によると大田川の淵の底に沈んでおられたのを拾い上げて祭ったのが始まりとか。



亀山歴史散策マップ 北めぐり



③ 旧綾西小学校

明治時代に小学校がおかれ、町村合併で大毛寺にある虹山小学校にバス通学となる。卒業生が1名もいない年もあった。



⑩ 観音谷の観音堂（観音菩薩）

亀山9-21 団地奥
旧堂宇は明治2年(1869)の再建であるが、平成3年(1991)の台風19号により、境内にあった直径70cm余のカシの木の倒壊により、下敷きとなり堂宇は損壊した。銅板ふきの屋根・総ヒノキ造りの新堂宇が、平成3年に完成した。堂内にある太鼓に宝永年間(1704~10)と年号が記されている。



④ 道標

大畑農協バス停横
「是ヨリ右ハ 谷和道 左ハ イムロ スヅハリ道
明治42年3月11日
中野 直 建
「南ハ 可部道 西ハ 飯室
鈴張道 東ハ福王寺 三入
大林道」
大正15年4月



⑪ 表勝木八幡神社

亀山9-25
応神天皇、他四柱を祀る。
弘安(1275~1286年)熊谷直時が西下した折に、観請した。昭和60年拝殿と舞殿をひとつの屋根とした。現在11月3日に社人末田氏が祭りを行う。



⑥ 峠の茶屋跡 うす

勝木上行森から火の見山山麓を西方へ越え、安佐町飯室の内古市へ通じる道に峠の茶屋跡があり、引き臼の半分が捨てられ現在も残っている。



⑫ 青古墳群

亀山5-35-10 下大毛寺下車 北へ徒歩13分

6世紀末から7世紀に造られた小規模の横穴式石室である。古墳時代の後半期に作られた横穴式石室は埋葬施設とし、被葬者の生前の権力を象徴するために古墳を造るという意識から、横泉(よみ)の国での生活を祈念するものになった



① 土井神社

綾ヶ谷 大畑農協バス停下車
最初は産土神として崇敬されていた。中世の頃、富樫五郎右衛門が尾崎山城主となり、守護神社として八幡神を祀り延光寺(円光寺)の西八反歩を神社に寄進し馬場とした。その後享保4年(1719年)に改築されている。



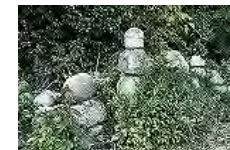
⑭ 大毛寺のお薬師さん

亀山5-7-7 国道191 下大毛寺バス停の側
薬師堂は安政年間に現在地に移され明治の中ごろ大修理、更に昭和25年に修理され今日に至っている。



⑧ 万蔵寺跡

勝木191号と大畑道のまじわりの所、今は竹藪の所にある
五輪塔が多くころがって、室町時代にはあったが大毛寺に移り、寺はなくなった。この寺、万蔵寺と名前だけは残っている。



⑬ 風呂明神社 (旧称)阿保明神社

亀山5-36-12 下大毛寺下車、北へ徒歩10分
創祀年代は不詳であるが、明神社の南に明神屋敷があり、瀬戸内海がここまで入り込んでいた。そこで水に縁の深い市杵島姫命を祀り、地域の安全を願った。



② 大畑薬師

綾ヶ谷 大畑農協バス停下車
薬師堂の創祀年月は不詳であるが、安永6年(1776)と文政2年(1819)の二回にわたり、村の庄屋が書き残した文書に「方一間本尊薬師如来あり」と記されている。円光寺がどのような寺であったのかは、記録もなく伝承も乏しい。綾ヶ谷の地名は、むかし、安芸地方の綾織物の産地で、綾織が盛んであったことから地名がついた。



⑦ 石切り観音

石切り観音は首切りにまつわる諸説が伝えられている。
① 堀田の集落で、黒猫が様々な姿に変じ人々の通行を妨げていたのを、通りかかった武芸者が一刀のもとに切りすてたが、黒猫と思つたのは石橋であり、二つになった石橋を重ねて祭った。その後黒猫はいなくなり、旅人は安心して通れるようになった。
② 飯室の城主が、新刀の切れ味を試すために切った人の霊を弔うため石仏を建て供養した。
③ 堀田の刀鍛冶が、自分のこしらえた刀で試し切りした弔いのために建てた。



⑮ 船山稲荷神社

亀山5-19-18 船山下車、北へ徒歩5分
昭和54年11月本殿が再建された。伝承によると、神武天皇が東征の途次帆待川を遡り船山に天皇自ら船を繋がれたという。



⑤ 山の神

山の神と言う2平方メートル位の土地がある。昭和10年前後のころ、山火事があった。山の神の場所だけは焼けなかった。そこに住む人々は神は目に見えないが、神はおられるものだと思うようになった。四方八方を聞いてみると神仏が、見守ってくださっている。その場所は石が置かれてある。



⑨ 遠坂峠地蔵 (恵坂地蔵)

勝木 上勝木バス停下車飯室方面徒歩3分

元の恵坂峠は、今の道路の60~70m北側の山の峯越えであり、恵坂地蔵も旧道の頂上にあつたものを、明治19年(1886)道路新設の際、現在地に移した。旧道の往来が盛んな頃は、夜になると「追いはぎ」の出没や「化け猫」が出るなど難所の1つになっていたが、これの解消のため地蔵尊を安置して以来、追いはぎや化け猫の話が消え去ったという。



⑯ 福王寺

福王寺口バス停より 徒歩1時間30分
弘法大師が天長5年(828)に開基したと伝えられる古刹で、池に金の亀が浮き出て大師に三拝の礼をもって迎えたことから、金亀山福王寺と名づけたとある。亀山の地名は、金亀山の金はずして「亀山」となった。

